



Cisco Unified MeetingPlace Express トラブルシューティング ガイド Release 1.2

(Cisco Unified MeetingPlace Express VT Release 1.2 を含む)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

This Software includes software governed by certain open source licenses as follows:

LAME 3.xx found at <http://www.mp3dev.org>.
LAME Ain't an MP3 Encoder
<http://www.mp3dev.org>
March 2001

Originally developed by Mike Cheng (www.uq.net.au/~zzmcheng).
Now maintained by Mark Taylor (www.mp3dev.org).

This code is distributed under the GNU LESSER PUBLIC LICENSE (LGPL, see www.gnu.org) with the following modification:

If you determine that distribution of LAME requires a patent license, and you obtain a patent license, you may distribute LAME even though redistribution of LAME may also require a patent license.

You agree not to enforce any patent claims for any aspect of MPEG audio compression, or any other techniques contained in the LAME source code.

LAME uses the MPGLIB decoding engine, from the MPG123 package, written by: Michael Hipp (www.mpg123.de) MPGLIB is released under the GPL.

Copyrights (c) 1999,2000,2001 by Mark Taylor
Copyrights (c) 1998 by Michael Cheng
Copyrights (c) 1995,1996,1997 by Michael Hipp: mpglib

As well as additional copyrights as documented in the source code.

If you cannot locate copies of the referenced GPL license(s) in this section please contact the Free Software Foundation at licensing@fsf.org or 51 Franklin St., 5th Floor, Boston, MA 02110-1301. For information about obtaining the source code for the third party software, contact Cisco Systems Legal Department and include details about the product and a copy of the license at 300 E. Tasman Dr., San Jose, CA 95124.

Portions of this software product are copyright as follows:

Copyright (c) 1985, 1987, 1988 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the University of California, Berkeley. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Portions of this software product include the following notice:

This file is in the public domain, so clarified as of 1996-06-05 by Arthur David Olson (arthur_david_olson@nih.gov)

Adobe technology is used in this product.

CCVP, the Cisco Logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0609R)

Adobe and Flash are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

Cisco Unified MeetingPlace Express *トラブルシューティングガイド Release 1.2*
Copyright © 2005-2006 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.



このマニュアルについて	v
目的	vi
対象読者	vi
マニュアルの構成	vi
関連マニュアル	vii
表記法	viii
技術情報の入手方法	ix
Cisco.com	ix
Product Documentation DVD (英語版)	ix
マニュアルの発注方法 (英語版)	ix
シスコシステムズマニュアルセンター	x
シスコ製品のセキュリティの概要	xi
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xi
Product Alerts および Field Notices	xii
テクニカル サポート	xiii
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xiii
Japan TAC Web サイト	xiv
サービス リクエストの発行	xiv
サービス リクエストのシビラティの定義	xiv
その他の資料および情報の入手方法	xv

CHAPTER 1

Cisco Unified MeetingPlace Express システムのアクセス問題に関するトラブルシューティング 1-1

root ユーザ アカウントのパスワードの復元	1-2
mpxadmin アカウントのパスワードの復元	1-4
エンドユーザ インターフェイスおよび管理コンソールで使用されるシステム管理者パスワードの復元	1-5
誤った SSL 証明書またはキーをアップロードした後のシステムへのアクセス	1-6
LDAP ログオンの試行に失敗する場合のトラブルシューティング	1-8

CHAPTER 2

Cisco Unified MeetingPlace Express のデータのバックアップ、アーカイブ、復元
 2-1
 データのバックアップ 2-2
 データのアーカイブ 2-3
 データの復元 2-4

CHAPTER 3

Cisco Unified MeetingPlace Express での電話に関する一般的な問題 3-1
 電話の失敗に関するヒント 3-2
 押したキーの未検出 3-3
 着信コールの失敗 3-4
 コールのドロップ 3-5
 コール中の沈黙時間 3-6
 パケットのドロップ 3-7
 発信不能 3-8

CHAPTER 4

Cisco Unified MeetingPlace Express で使用される例外コードとモジュール番号
 4-1
 例外コード 4-2
 モジュール番号 4-8

CHAPTER 5

Cisco Unified MeetingPlace Express システムの一般的なトラブルシューティングのヒント 5-1
 ディスク ドライブのスワップ アウト 5-2
 Cisco MCS 7825 でのディスク ドライブのスワップ アウト 5-2
 Cisco MCS 7835 または MCS 7845 でのディスク ドライブのスワップ アウト 5-3
 ファイルの場所 5-3
 ライセンス エラーの問題のトラブルシューティング 5-4
 過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング 5-4
 Web ページが表示されない問題のトラブルシューティング 5-4

INDEX

索引



このマニュアルについて

この章は、次の項で構成されています。

- [目的 \(P.vi\)](#)
- [対象読者 \(P.vi\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.vi\)](#)
- [関連マニュアル \(P.vii\)](#)
- [表記法 \(P.viii\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.ix\)](#)
- [シスコシステムズマニュアルセンター \(P.x\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.xi\)](#)
- [Product Alerts および Field Notices \(P.xii\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.xiii\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.xv\)](#)

目的

『Cisco Unified MeetingPlace Express トラブルシューティングガイド Release 1.2』は、Cisco Unified MeetingPlace Express システムにおける問題のトラブルシューティングに必要な情報を提供します。



(注)

このマニュアルは、管理センターまたはエンドユーザ インターフェイスでは発生しない問題のトラブルシューティングについてのみ紹介します。管理センターまたはエンドユーザ インターフェイスで発生する問題のトラブルシューティングの詳細については、P.vii の「関連マニュアル」を参照してください。

Cisco Unified MeetingPlace Express システムのインストールまたはアップグレード方法、管理センターでシステム管理者が実行するタスク、あるいはエンドユーザ インターフェイスの使用方法については説明しません。

対象読者

このマニュアルは、システムの管理者を対象としています。エンドユーザは対象としていません。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

- 第 1 章「Cisco Unified MeetingPlace Express システムのアクセス問題に関するトラブルシューティング」
- 第 2 章「Cisco Unified MeetingPlace Express のデータのバックアップ、アーカイブ、復元」
- 第 3 章「Cisco Unified MeetingPlace Express での電話に関する一般的な問題」
- 第 4 章「Cisco Unified MeetingPlace Express で使用される例外コードとモジュール番号」
- 第 5 章「Cisco Unified MeetingPlace Express システムの一般的なトラブルシューティングのヒント」

関連マニュアル

一般情報

シスコの会議機能に関するマニュアルの詳細については、次の URL から、「*Documentation Roadmaps*」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd_products_support_series_home.html

インストールおよびアップグレード

Cisco Unified MeetingPlace Express のインストールおよびアップグレードの詳細については、次の URL から、『*Cisco Unified MeetingPlace Express インストレーション アップグレード ガイド Release 1.2*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd_products_support_series_home.html

設定および保守

Cisco Unified MeetingPlace Express システムの設定および保守に関する情報、または管理センターにおける問題のトラブルシューティングについて情報が必要な場合は、次のいずれかを参照してください。

- 『*Cisco Unified MeetingPlace Express コンフィギュレーション メンテナンス ガイド Release 1.2*』には、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco Unified MeetingPlace Express 管理センターから、オンライン ヘルプを参照してください。

エンドユーザ ヘルプ

Cisco Unified MeetingPlace Express システムの一部であるエンドユーザ インターフェイスの使用、またはトラブルシューティングの詳細については、次のいずれかを参照してください。

- 『*Cisco Unified MeetingPlace Express ユーザ ガイド Release 1.2*』には、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco Unified MeetingPlace Express エンドユーザ インターフェイスから、オンライン ヘルプを参照してください。
- 『*Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2 と Microsoft Outlook の統合：ユーザ ガイド*』には、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6533/tsd_products_support_series_home.html
- Microsoft Outlook プラグイン アプリケーションでオンライン ヘルプを参照してください。このアプリケーションは、Cisco Unified MeetingPlace Express の会議のスケジュールに使用されます。
- Cisco Unified IP Phone のヘルプ画面を参照してください。

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	表示されたとおりに正確に入力する必要のあるコマンド。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数。
[]	省略可能な要素に使用します。
ストリング	ユーザが入力する一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen	画面に表示される情報に使用します。
^	Ctrl キー：たとえば、 ^D は Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードなど表示されない文字に使用します。



ヒント

時間を節約する方法で役立ちます。



(注)

重要な情報が含まれています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。ここでは、シスコが提供する製品マニュアル リソースについて説明します。

Cisco.com

シスコのマニュアルの最新版には、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

シスコの Web サイトの各国語版には、次の URL からアクセスしてください。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_uc.shtml

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納したライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関するマニュアルにアクセスすることができます。また、この DVD を使用すると、次の URL のシスコの Web サイトに掲載されている HTML マニュアルおよび PDF ファイルにアクセスすることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

Product Documentation DVD は、毎月作成され、月の半ばにリリースされます。DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB)を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

マニュアルの発注方法 (英語版)

Cisco Marketplace にアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります。登録ユーザの場合、Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>

ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードにアクセスしてください。PSIRT RSS フィードにアクセスする方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合—security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合—psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品 (GnuPG など) を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

Product Alerts および Field Notices

シスコ製品に対する変更やアップデートは、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices で通知されます。Cisco.com のプロダクト アラート ツールを使用すると、Cisco Product Alerts および Cisco Field Notices を受け取ることができます。このツールを使用すれば、プロフィールを作成して、情報を受け取る製品を選択できます。

プロダクト アラート ツールにアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります。(Cisco.com にユーザ登録するには、<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do> にアクセスします)。登録ユーザは、<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en> でこのツールを使用できます。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ただけのように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

オンラインまたは電話でサービス リクエストを発行する前に、**Cisco Product Identification Tool** を使用して製品のシリアル番号を確認してください。Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでこのツールを使用するには、**Tools & Resources** リンクをクリックし、**All Tools (A-Z)** タブをクリックした後、アルファベット順のリストから **Cisco Product Identification Tool** を選択します。このツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。



ヒント

Cisco.com での表示および検索

ブラウザが Web ページをリフレッシュしていないと思われる場合は、Ctrl キーを押したまま F5 を押すことで強制的にブラウザに Web ページを更新させます。

技術情報を検索する場合は、Cisco.com の Web サイト全体ではなく、技術マニュアルに検索対象を絞り込みます。Cisco.com のホームページで、Search ボックスの下にある **Advanced Search** リンクをクリックし、**Technical Support & Documentation** オプション ボタンをクリックしてください。

Cisco.com の Web サイトまたは特定の技術マニュアルに関するフィードバックを送るには、Cisco.com のすべての Web ページの下部にある **Contacts & Feedback** をクリックします。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネル パートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコのチャネル製品の最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/guide>

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行するシスコのネットワーキング担当者向けの雑誌です。『Packet』は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンライン サービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL から登録してください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- 「What's New in Cisco Documentation」は、シスコ製品の最新のマニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン出版物です。このオンライン出版物は毎月更新され、製品カテゴリ別に編成されているため、製品のマニュアルを簡単に検索できます。次の URL で「What's New in Cisco Documentation」の最新リリースを見ることができます。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/abtnucd/136957.htm>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



Cisco Unified MeetingPlace Express システムのアクセス問題に関する トラブルシューティング

この章には、次のトピックがあります。

- [root ユーザ アカウントのパスワードの復元 \(P.1-2\)](#)
- [mpxadmin アカウントのパスワードの復元 \(P.1-4\)](#)
- [エンドユーザ インターフェイスおよび管理コンソールで使用されるシステム管理者パスワードの復元 \(P.1-5\)](#)
- [誤った SSL 証明書またはキーをアップロードした後のシステムへのアクセス \(P.1-6\)](#)
- [LDAP ログオンの試行に失敗する場合のトラブルシューティング \(P.1-8\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

root ユーザ アカウントのパスワードの復元

Cisco Unified MeetingPlace Express システムのインストール中に root ユーザ アカウント用に作成したパスワードを忘れた場合は、次の手順でパスワードをリセットします。

手順

ステップ 1 サーバをリブートします。

ステップ 2 リブート時に 3 秒だけ、root のパスワードをリセットするためにサーバ設定のアップデートを選択できる時間があります。画面の最上部に GRUB という語が表示され、Cisco Unified Communications と入力されたテキスト ボックスが表示されたら、すぐに Space キーを押します。



注意 この画面が表示されてから Space キーを押すまでの時間は、3 秒だけです。



(注) この画面のどこにも、Space キーを押して root パスワードをリセットすることに関する表示はされていません。

ステップ 3 3 つのオプションが表示されます。上または下の矢印キーを押して、3 番目のエントリを選択します。「kernel」で始まるエントリです。

ステップ 4 e を押してエントリを編集します。

ステップ 5 エントリの最後にスペースを 1 つ入力してから single と入力します。



(注) single と入力する前に、必ず 1 つ空白を入れる必要があります。

ステップ 6 Enter キーを押して、前の画面に戻ります。3 番目のエントリの最後に、single という語が表示されます。

ステップ 7 b を押してサーバのリブートを続行します。

ステップ 8 プロンプトで /root/.security/unimmunize.sh と入力します。

ステップ 9 プロンプトで passwd root と入力します。これで、root というユーザ用の新しいパスワード設定が指示されます。

ステップ 10 [New password] プロンプトで、新しいパスワードを入力します。セキュリティ上の理由から、パスワードは一連のアスタリスクで表示されます。



(注) パスワードが不適切であることを示すメッセージが表示される場合があります。このメッセージは無視してください。

ステップ 11 [Retype new password] プロンプトで、同じパスワードを再入力します。

ステップ 12 プロンプトで、`/root/.security/immunize.sh` と入力します。

ステップ 13 プロンプトで `reboot` と入力します。サーバがリブートされます。

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティングシステムのログイン ページが表示されます。

ステップ 14 [username] プロンプトで、`root` と入力します。

ステップ 15 [password] プロンプトで、[ステップ 9](#) で作成した新しいパスワードを入力します。

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティングシステムのデスクトップが表示されます。

mpadmin アカウントのパスワードの復元



(注) この場合も、同じ手順を実行して mpadmin アカウントのパスワードを変更します。

Cisco Unified MeetingPlace Express システムのインストール中に mpadmin ユーザ アカウント用に作成したパスワードを忘れた場合は、次の手順でパスワードをリセットします。

手順

ステップ 1 root ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 [password] プロンプトで、root のパスワードを入力します (root のパスワードを忘れた場合は、まず P.1-2 の「root ユーザ アカウントのパスワードの復元」の手順を実行してください)。

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、[New Terminal] を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 プロンプトで、`/root/.security/unimmunize.sh` と入力します。

ステップ 6 プロンプトで、`passwd mpadmin` と入力します。これで、mpadmin というユーザ用の新しいパスワード設定が指示されます。

ステップ 7 [New password] プロンプトで、新しいパスワードを入力します。セキュリティ上の理由から、パスワードは一連のアスタリスクで表示されます。



(注) パスワードが不適切であることを示すメッセージが表示される場合があります。このメッセージは無視してください。

ステップ 8 [Retype new password] プロンプトで、同じパスワードを再入力します。

ステップ 9 プロンプトで、`/root/.security/immunize.sh` と入力します。

ステップ 10 デスクトップで、[RedHat] > [Network Services] をクリックします。

ステップ 11 [Log out] をクリックします。

エンドユーザ インターフェイスおよび管理コンソールで使用されるシステム管理者パスワードの復元

システム管理者アカウント用に作成したパスワードを忘れた場合は、次の手順でパスワードをリセットします。このパスワードは、エンドユーザ インターフェイスおよび管理センターで使用されます。

手順

-
- ステップ 1** **mpxadmin** ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。
- ステップ 2** [password] プロンプトで、**mpxadmin** のパスワードを入力します (**mpxadmin** のパスワードを忘れた場合は、まず P.1-4 の「[mpxadmin アカウントのパスワードの復元](#)」の手順を実行してください)。
- Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。
- ステップ 3** デスクトップを右クリックします。
- ステップ 4** メニューから、[New Terminal] を選択します。端末セッションが始動します。
- ステップ 5** プロンプトで、**userutil -p admin <newpassword>** と入力します。**newpassword** は新しいパスワードです。これで、エンドユーザ インターフェイスおよび管理センターの **admin** というユーザのパスワード設定が指示されます。
- ステップ 6** デスクトップで、[RedHat] > [Network Services] をクリックします。
- ステップ 7** [Log out] をクリックします。
-

誤った SSL 証明書またはキーをアップロードした後のシステムへのアクセス

Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションで Secure Socket Layer (SSL) を使用するには、SSL 証明書をアップロードし、SSL を有効にする必要があります。この手順については、『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2*』を参照してください。



(注) アップロードする SSL 証明書は PEM 形式である必要があります。SSL 証明書が DER 形式の場合は、PEM 形式に変換し、アップロードし直してください。証明書を DER から PEM に変換するには、次の CLI コマンドを使用します。

```
openssl -in <file1.crt> -inform DER -out <file2.crt>
```

file1.crt は DER ファイル名、*file2.crt* は PEM ファイル名です。

しかし、誤った証明書名または秘密鍵名を入力して SSL を有効にした場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションにアクセスできず、ロックアウトされます。

アプリケーションにアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Web ブラウザを開き、<http://<localhostname>:8080> に移動します。**localhostname** は使用しているローカルホスト名です。

Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションが開きます。

ステップ 2 Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。

ステップ 3 ページの上部にある [管理] をクリックします。

ステップ 4 ページの左側で、次の手順を実行します。

a. [Certificate Management] をクリックします。

b. [Disable SSL] をクリックします。

ステップ 5 [Disable SSL] をクリックして、SSL を無効にします。

ステップ 6 [Restart Now] をクリックして、Cisco Unified MeetingPlace Express システムを再起動します。

再起動により、Web 会議の設定ファイルがアップデートされ、システムの再起動後は Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションに正常にアクセスできるようになります。

Web ブラウザを開き、<http://<localhostname>> に移動します。**localhostname** は使用しているローカルホスト名です。

ステップ 7 Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。

ステップ 8 ページの上部にある [管理] をクリックします。

ステップ 9 ページの左側で、次の手順を実行します。

- a. [Certificate Management] をクリックします。
- b. [Enable SSL] をクリックします。

ステップ 10 正しい証明書名または秘密鍵名を入力します。

ステップ 11 [Upload Certificates] をクリックします。

ステップ 12 ダイアログボックスが表示されます。ここでは、サーバが再起動されること、およびそのことを確認した場合にだけ処理が実行されることが記載されています。[OK] をクリックして証明書をアップロードし、設定をアップグレードして、サーバを再起動します。

それでも SSL が有効にならない場合は、システムに作成された秘密鍵が Certificate Signing Request (CSR; 証明書署名要求) の初期生成時に上書きされた可能性があります (新しい CSR を生成した場合に発生する場合があります)。このような場合の復旧手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。

ステップ 2 ページの上部にある [管理] をクリックします。

ステップ 3 ページの左側で、次の手順を実行します。

- a. [Certificate Management] をクリックします。
- b. [Generate CSRs] をクリックします。

ステップ 4 各フィールドに情報を入力します。

ステップ 5 [Generate CSRs] をクリックします。

新しい秘密鍵が生成され、/usr/local/enrollment ディレクトリに格納されます。

ステップ 6 新しい CSR を CA に送信し、その CSR で SSL 認証を再発行できるようにします。

ステップ 7 CA から SSL 認証を受信したら、[Enable SSL] ページに移動し、証明書をアップロードします。

LDAP ログオンの試行に失敗する場合のトラブルシューティング

特定の条件に当てはまる場合に、Cisco Unified MeetingPlace Express にログインするときに次のようなトラブルが発生する場合があります。

- 1人のユーザだけに問題があり、そのユーザが Cisco Unified CallManager の LDAP 統合を使用していて、Cisco Unified CallManager のユーザ ページにログインできない場合は、Cisco Unified CallManager でのそのユーザのパスワードをリセットします。それでもそのユーザがログインできない場合は、次に説明する手順を実行します。
- 1人のユーザだけに問題があり、そのユーザがサードパーティの LDAP 統合 (Active Directory など) を使用していて、LDAP ドメインにログインできない場合は、サードパーティの LDAP 統合でそのユーザのパスワードをリセットします。それでもそのユーザがログインできない場合は、次に説明する手順を実行します。
- すべてのユーザに影響がある場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express の Usage Configuration ページ ([管理] > [System Configuration] > [Usage Configuration]) で、LDAP の設定を確認します。次のことを確認します。
 - [LDAP URL] フィールドの値が正しく、空白がどこにもないかどうか。



ヒント

空白が確実になくなるようにするには、現在のエントリを削除して、もう一度 LDAP の値を入力します。

- ディレクトリの [username] と [Password] の各フィールドのエントリが正しいこと。各フィールドに設定可能な値については、『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2*』を参照してください。

なんらかの変更を加えた場合は、Cisco Unified MeetingPlace Express サーバを再起動します。それでも問題が修正されない場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 admin ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。



(注) Cisco Unified MeetingPlace Express へのログインについては、『*Cisco Unified MeetingPlace Express インストレーション アップグレード ガイド Release 1.2*』を参照してください。

ステップ 2 次の手順でシステムの情報を取り込みます。

- a. Cisco Unified MeetingPlace Express で、上部のメニューバーの [管理] をクリックします。
- b. 左側で、[Services]、[Logs]、[View System Information Capture] の順にクリックします。
- c. フォームに情報を入力します。[Approximate event time] フィールドには、LDAP メカニズムを使用してログインしようとしたおよその時刻を入力します。
- d. [Log capture] ウィンドウ フィールドに 10 と入力します。
- e. [View Logs] をクリックします。
- f. ポップアップ メッセージで [OK] をクリックします。
- g. [Export to File] をクリックして、作成されたファイルを保存します。

ステップ3 保存したファイルを Cisco TAC に送ります。

Cisco Unified CallManager を使用している場合は、次の点に注意してください。

- Cisco Unified CallManager Data Connection Directory にログインできるかどうかを確認しておきます。
たとえば、Cisco Unified CallManager で、[Programs] > [DC Directory Administration] を選択します。Cisco Unified MeetingPlace Express の Usage Configuration ページ ([管理] > [System Configuration] > [Usage Configuration]) の [Password] フィールドで指定したパスワードを使用して、ディレクトリ マネージャとしてログインします。
- 最初にユーザが Cisco Unified MeetingPlace Express にログインしたときに、エンドユーザ インターフェイスを使用できることを確認しておきます。



(注) ユーザが最初にログインしたときに、Cisco Unified MeetingPlace Express でそのユーザのプロファイルが「即時に」作成されます。正常なログイン（およびメッセージ *Welcome 「User」* の表示）は、ユーザのプロファイルが正常に作成されたことを意味します。ユーザが Telephone User Interface (TUI; 電話ユーザ インターフェイス) を使用して最初のログインを試行すると、プロファイルは作成されません。

- ユーザ プロファイルが Cisco Unified CallManager でロックされていないことを確認しておきます（ユーザ プロファイルは、ログインを何度も試行して失敗すると、ロックされます）。
- Cisco Unified MeetingPlace Express のログが次の場所にあることを確認しておきます。
`/opt/cisco/meetingplace_express/tomcat/current/logs/bounty.out`

■ LDAP ログオンの試行に失敗する場合のトラブルシューティング



Cisco Unified MeetingPlace Express のデータのバックアップ、アーカイブ、 復元

この章には、次のトラブルシューティングに関するトピックがあります。

- [データのバックアップ \(P.2-2\)](#)
- [データのアーカイブ \(P.2-3\)](#)
- [データの復元 \(P.2-4\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

データのバックアップ

Cisco Unified MeetingPlace Express の Administration Center を使用して、自動的にデータをバックアップするように設定することができます。

自動バックアップ機能を無効にしても、手動でデータをバックアップできます。ただし、自動バックアップを無効にする場合は、一度に1つのバックアップだけを実行するようにしてください。

データを手動でバックアップするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 `mpxadmin` ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティングシステムにログインします。

ステップ 2 `[password]` プロンプトで、`mpxadmin` のパスワードを入力します

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティングシステムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、`[New Terminal]` を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 次のように入力して、手動でデータをバックアップします。

```
sudo $MP_DATABASE/db-maintenance/backup.sh
```

ステップ 6 デスクトップで、`[RedHat]` > `[Network Services]` をクリックします。

ステップ 7 `[Log out]` をクリックします。

データのアーカイブ

Cisco Unified MeetingPlace Express の Administration Center を使用して、自動的にデータをアーカイブするように設定することができます。ただし、データを手動でアーカイブする場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 `mpxadmin` ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 `[password]` プロンプトで、`mpxadmin` のパスワードを入力します

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、`[New Terminal]` を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 次のように入力して、手動でデータをアーカイブします。

```
sudo $MP_DATABASE/db-maintenance/archive.sh
```



(注) `archive.sh` スクリプトでは、`$MP_DATABASE/db-maintenance/settings.config` ファイルで定義されたりリモート ログイン クレデンシャルが使用されます。これらのクレデンシャルは、Cisco Unified MeetingPlace Express の Administration Center を使用して設定できます。

ステップ 6 デスクトップで、`[RedHat]` > `[Network Services]` をクリックします。

ステップ 7 `[Log out]` をクリックします。

データの復元

データを復元すると、データベース サーバのデータがバックアップ記憶域と論理ログ ファイルから再作成されます。データベース サーバのデータを格納した障害ディスクの置換、ロジック エラーを含むプログラムによるデータベースの破損、データベース サーバのデータの新コンピュータへの移動、ユーザによる偶然のデータ破損またはデータ破棄などの場合に、データを復元しなければならないことがあります。

障害発生時点までデータを復元するには、少なくとも1つのL0バックアップが必要です。復元は、Informix の `ontape` コマンドを使用して実行されます。Cisco Unified MeetingPlace Express には、復元プロセスを簡単に実行できる `restore.sh` というスクリプトが用意されています。このスクリプトは、`$MP_DATABASE/db-maintenance` ディレクトリにあります。

バックアップには複数のレベル (L0、L1 および L2) があります。データを復元するには、正しい順序のバックアップ ファイルが必要です。たとえば、正しい L0 と L2 のバックアップ ファイルがあっても、それに対応する L1 バックアップ ファイルがなければ、データを復元することはできません。手動で作成したバックアップ ファイルをローカル ディスクまたはアーカイブ場所に置いている場合は、特に注意が必要です。



注意

復元が可能なデータベースは、同じバージョンの Cisco Unified MeetingPlace Express 製品のものだけです。前のバージョンで作成されたデータベースは復元できません。

復元前後のデータベース名は同じである必要があります。

バックアップ ファイルからデータを復元するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** `mpxadmin` ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。
- ステップ 2** `[password]` プロンプトで、`mpxadmin` のパスワードを入力します
- Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。
- ステップ 3** デスクトップを右クリックします。
- ステップ 4** メニューから、`[New Terminal]` を選択します。端末セッションが始動します。
- ステップ 5** 次のように入力して、Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションをシャットダウンします。
- ```
mpx_sys stop
```
- ステップ 6** 次のように入力して、データを復元します。
- ```
sudo $MP_DATABASE/db-maintenance/restore.sh
```
- ステップ 7** デスクトップで、`[RedHat]` > `[Network Services]` をクリックします。
- ステップ 8** `[Log out]` をクリックします。
-



Cisco Unified MeetingPlace Express での電話に関する一般的な問題

この章には、次のトピックがあります。

- [電話の失敗に関するヒント \(P.3-2\)](#)
- [押したキーの未検出 \(P.3-3\)](#)
- [着信コールの失敗 \(P.3-4\)](#)
- [コールのドロップ \(P.3-5\)](#)
- [コール中の沈黙時間 \(P.3-6\)](#)
- [パケットのドロップ \(P.3-7\)](#)
- [発信不能 \(P.3-8\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

電話の失敗に関するヒント

電話に失敗する場合は、常に次のヒントを参照してください。

- コール時にネットワークの輻輳があったかどうかを確認します。ネットワークの輻輳情報は、ルータとスイッチの統計情報から確認できます。
- Cisco Unified MeetingPlace Express システムが 100 Mbps の全二重ネットワーク速度に設定されていることを確認します。
- Cisco Unified MeetingPlace Express のローカル スイッチ ポートのオートネゴシエーション設定が、Cisco Unified MeetingPlace Express システムと同じになっていることを確認します。CLI から `mii-tool` コマンドを実行すると、現在のリンク設定を確認できます。
- Cisco Unified MeetingPlace Express とローカル スイッチ (またはルータ) が正しく設定されている場合は、スイッチまたはルータのもう一方の側も全二重の 100 Mbps に設定されていることを確認します。
- Cisco Unified MeetingPlace Express システムが複数デバイス対応のイーサネットバスに接続されていないことを確認します。このシステムは、他のデバイスとバスを共有するよりも、マイクロセグメント化して単一のスイッチ ポートを使用する場合に最も効果的に動作します。バスの共有によって過剰なコリジョンが発生し、それによる帯域幅の減少が原因となり、帯域幅の使用に予期しない影響を与える可能性があります。
 - スイッチを増設し、ネットワーク デバイスを複数スイッチ間に分散させることにより、ローカル LAN 内のトラフィックを減少させます。
 - ルータを増設してより多くの (より小規模な) LAN を複数作成することにより、ローカル LAN 上のデバイス (ひいてはトラフィック) の数を減少させます。ただし、使用されていないポートがローカル ルータに複数ある場合は、ルータの増設が必要ない場合もあります。
 - Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) をローカル ルータに追加して無関係なトラフィックをフィルタで排除するなど、ネットワーク デバイスの設定を変更し、不要なトラフィックを減少させます。
- ネットワーク トラフィックのトレースを入手します。このトレースは、eth0 ポートにできるだけ近い場所で取得してください。
- 一部の電話では、受信した不正フレーム数に関するネットワークのエラー統計情報がわかるようになっています。該当の電話がこのような統計情報を持っているかどうか確認してください。持っている場合は、電話に多数の不正フレームの受信が登録されているかどうかを確認します。
- コールから Cisco Unified MeetingPlace Express への経由点となるデバイスの設定を確認します。
- 電話と Cisco Unified MeetingPlace Express の間にコールの妨げとなるファイアウォールが 1 つでも存在していないかを確認します。

押したキーの未検出

Cisco Unified MeetingPlace Express システムが、電話のキーを押したときにそれを認識していないと考えられる場合は、次の手順を実行してみてください。

手順

ステップ 1 root ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 [password] プロンプトで、root のパスワードを入力します

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、[New Terminal] を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 CLI で次のように入力します。

```
eventlog -b<mmddhhmm> -e<mmddhhmm>
```

開始時刻 (-b の値) には、コールが失敗した直前の時刻を入力します。終了時刻 (-e の値) には、コールが失敗した直後の時刻を入力します。

ステップ 6 DID/DNIS と入力イベントを確認して、自分のポートを判別します。

ステップ 7 その後、トレースで、使用している電話から送信された DTMF が検出されていたかどうかを確認します。検出されていない場合は、次の点を確認します。

- テレフォニー ネットワークが RFC 2833 デジットとアウトオブバンド デジットのどちらを使用しているか (Cisco Unified MeetingPlace Express システムはインバンド デジットをサポートしません)。
- ネットワークの輻輳によって RFC 2833 デジットまたはアウトオブバンド デジットがシステムに到達できていないかどうか。
- G.711 ではなく、G.729 コーダがネットワークのどこかで使用されていないかどうか。G.729 はインバンド デジット (DTMF) に深刻な破損を与え、インバンド デジットは失われるか、変更されます。このような状態で、かつ RFC 2833 を選択できない場合は、純粋な G.711 ネットワークへの変換を検討してください。

着信コールの失敗

着信コールを受信できない場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 root ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 [password] プロンプトで、root のパスワードを入力します。

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、[New Terminal] を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 CLI で次のように入力します。

```
eventlog -b<mmddhhmm> -e<mmddhhmm>
```

開始時刻 (-b の値) には、コールが失敗した直前の時刻を入力します。終了時刻 (-e の値) には、コールが失敗した直後の時刻を入力します。

ステップ 6 Cisco Unified MeetingPlace Express システムにコール シグナリング パケットが登録されていたかどうかを確認します。

- システムにコールが登録されていた場合は、トレース ログでコールが接続解除された原因を調査します。次のいずれかのコマンドを入力します。

```
eventlog -b<mmddhhmm> -e<mmddhhmm> -v
```

```
eventlog -b<mmddhhmm> -e<mmddhhmm> -G -v
```

- システムのトレース ログにコールが登録されていなかった場合は、コールを Cisco Unified MeetingPlace Express にルーティングするデバイスの設定に問題がある可能性があります。また、ファイアウォールによってコールのシステムへの到達が妨げられていた可能性がないかも確認してください。
-

コールのドロップ

コールがシステムに接続された後で、コール中に接続解除される場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 root ユーザとして Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムにログインします。

ステップ 2 [password] プロンプトで、root のパスワードを入力します。

Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティング システムのデスクトップが表示されます。

ステップ 3 デスクトップを右クリックします。

ステップ 4 メニューから、[New Terminal] を選択します。端末セッションが始動します。

ステップ 5 CLI で次のように入力します。

```
eventlog -b<mmddhhmm> -e<mmddhhmm>
```

開始時刻 (-b の値) には、コールが失敗した直前の時刻を入力します。終了時刻 (-e の値) には、コールが失敗した直後の時刻を入力します。

ステップ 6 「far end disconnect event」があるかどうかを確認します。このイベントが見つかった場合、接続解除は Cisco Unified MeetingPlace Express システム外から行われた可能性があります。電話と Cisco Unified MeetingPlace Express システムの間のデバイスにエラーがないかを確認します。

ステップ 7 「far end disconnect event」が見つからない場合、Cisco Unified MeetingPlace Express システムは最初にユーザの電話を切ります。トレース ログを確認して、システムでユーザの電話が切られた原因を判別します。

ステップ 8 システムで Cisco Unified CallManager を使用している場合は、Cisco Unified CallManager のネットワーク管理者に連絡して、Cisco Unified CallManager から接続解除イベントが送信された理由を示すコール セッション トレースを入手します。

コール中の沈黙時間

コールが接続解除されていると思われるときに、電話にはコールがまだアクティブであると表示される場合は、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 会議中の場合は、#21 と入力して、すべての会議参加者のロールコールを聞きます。

何か聞こえたかどうかを確認します。

- 聞こえた場合は、少なくとも片通話（聞くことはできるが、発言はできない）は可能だとわかります。
- 何も聞こえない場合は、両方向で音声に通じていないか、ユーザが押した DTMF キーを Cisco Unified MeetingPlace Express が検出できないかのどちらかです。

ステップ 2 この情報をネットワーク管理者に連絡し、Cisco Unified CallManager のコールセッション トレースを入手します。

パケットのドロップ

RTCP の統計情報で判別するなどして、パケットがドロップしていると判断される場合や、配信エラーの後にエンドポイントでパケットがドロップしていることがわかった場合は、次のコール設定パラメータの変更を検討します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Express にログインします。

ステップ 2 ページの上部にある [管理] をクリックします。

ステップ 3 ページの左側で、次の手順を実行します。

- a. [System Configuration] をクリックします。
- b. [Call Configuration] をクリックします。
- c. [Audio Parameters] をクリックします。

ステップ 4 [Default G.711 packet size (milliseconds)] フィールドに **10** と入力します。

パケットサイズを小さくするほど、失われたパケットによる損傷が少なくなります。ただし、ネットワークトラフィックはわずかに増加します。

ステップ 5 [Voice activity detect] フィールドを [yes] に設定します。

この設定により、通話相手への発信パケット数が減少します。Cisco Unified MeetingPlace Express システムは、会議中、アクティブに発言している参加者がいる場合にだけパケットを送信します。ただし、参加者の誰かが発言を開始するときにならぬ遅延が生じ、最初の音声の一部が聞こえない場合があります。

ステップ 6 組織内での Voice Activity Detect (VAD; 音声アクティビティ検出) の使用をどのように電話に設定するかを決定します。このように、電話は、ハンドセットまたはヘッドセットでサウンドを検出した場合に、パケットを Cisco Unified MeetingPlace Express システムに送信するだけです。

ステップ 7 [Maximum jitter buffer (milliseconds)] フィールドを **250** に設定します。

これが許可される最大の値になります。このように高い値にするほど、会話にはより長い遅延が発生しますが、トラフィックに急なサージがあった場合に失われるパケットも少なくなります。

ステップ 8 帯域幅を最大化するために、ネットワーク管理者に依頼して、Cisco Unified MeetingPlace Express システムおよびシステムに接続されているローカルスイッチが両方とも 100 Mbps の全二重モードになっていることを確認します。

発信不能

複数のユーザがシステムから発信できない場合は、次の手順を実行します。

- [H.323 ID] フィールドが空白でないことを確認します。確認するには、管理センター の H.323 Call Configuration ページに進みます。

特定のユーザがシステムから発信できない場合は、次の手順を実行します。

- そのユーザがプロファイル ユーザである場合は、Edit User Profiles ページに進み、[Can call out of meetings] フィールドが [Yes] に設定されていることを確認します。
- ユーザがゲスト ユーザの場合は、次の手順を両方実行します。
 - Usage Configuration ページに進み、[Allow guest outdials] フィールドが [Yes] に設定されていることを確認します。
 - Edit User Profiles ページに進み、ゲスト ユーザの [Can call out of meetings] フィールドが [Yes] に設定されていることを確認します。



Cisco Unified MeetingPlace Express で使用される例外コードとモジュール 番号

この章では、Cisco Unified MeetingPlace Express システムで使用される例外コードについて説明します。この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカル サポート](#)」を参照してください。

例外コード

Cisco Unified MeetingPlace Express システムでは、内部的な問題が発生すると、必ず例外コードが生成されます。例外コードは数が多いため、ここではすべては説明しません。最も重要なコードと、管理者が修正できる可能性のあるコードだけを説明します。

このようなエラー コードを発見するには、**errorlog CLI コマンド**を実行します。

表 4-1 では、Cisco Unified MeetingPlace Express システムで最も頻繁に見られる重要な例外コードを説明します。



(注)

例外コードは、10 進数で表記される場合と、16 進数で表記される場合があります。わかりやすくするために、ここでは両方のコードの数字を示します。

表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Express の重要な例外コード

コード (10 進数)	コード (16 進数)	シビラティ	表示テキスト	コメント
131157	0x20055	MAJOR	Time has been set backwards.Some resource reservations may be lost.	<p>Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションの最後の実行以降、システム クロックが少なくとも前月までさかのぼって設定されています。その結果、一部のリソース予約レコードが失われる可能性があります。</p> <p>推奨処置 システム クロックを確認します。Cisco Unified MeetingPlace Express アプリケーションは、必ずクロックを変更する前にシャットダウンします。</p>
131192	0x20078	MAJOR	The CS is behind ## seconds.Conf ##, Next Event ##, Time ##	<p>会議管理ソフトウェアが会議のライフサイクル イベントの処理に追いついていません。システムの過負荷を示している可能性があります。システムが一時的にダウンしていることによる正常な結果である場合もあります。処理が追いつかないというエラーで繰り返しアラームが発生する場合は、ソフトウェア障害を示している場合があります。</p> <p>推奨処置 処置は不要です。</p>

表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Express の重要な例外コード (続き)

コード (10進数)	コード (16進数)	シビラティ	表示テキスト	コメント
131198	0x2007E	INFO	No ports left to extend meeting.Erc ##,Now ##, Length ##, Ports ##	<p>Cisco Unified MeetingPlace Express システムは、使用可能な音声ポートが不足したために、会議の延長に失敗しました。</p> <p>推奨処置 処置は不要です。</p>
196686	0x3004E	MINOR	Too many conference events.Next event = ##, Conf = ##, Max events = ##	<p>同時に会議に入席または退席した参加者が多すぎて、Cisco Unified MeetingPlace Express システムが入席と退席のアナウンスをキューに入れる処理能力に過負荷が生じたと考えられます。</p> <p>推奨処置 処置は不要です。</p>
196848	0x300F0	MINOR	Allocation of access ports to units has been fixed.Thank you!	<p>「too many access ports」(エラーメッセージ「0x300F1」を参照)の状態が解決されました。</p> <p>推奨処置 処置は不要です。</p>
196849	0x300F1	MINOR	Too many access ports compared to licenses ##.	<p>設定された音声ポート数が有効なライセンス数を超えています。## は設定された値です。ライセンスの有効期限が一時的に切れていることが原因となっている場合があります。</p> <p>推奨処置 処置は不要です。</p>
196943	0x3014F	WARN	FLEXLM: Failed to connect to license server; status = ##.	<p>ライセンス マネージャが実行されていません。有効なライセンスがインストールされていないと考えられます。</p> <p>推奨処置 処置は不要です。</p>
196944	0x30150	MINOR	No conferencing licenses are installed.	<p>システムには、音声会議と Web 会議のどちらの有効なライセンスもインストールされていません。</p> <p>システムのデフォルトの音声会議ライセンス数は6です。</p> <p>推奨処置 ライセンスを取得してインストールします。</p>

表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Express の重要な例外コード (続き)

コード (10進数)	コード (16進数)	シブリティ	表示テキスト	コメント
196946	0x30152	WARN	Unexpected LDAP response.	LDAP サーバから予期しない応答がありました。システム間に互換性がないことを示している可能性があります。 推奨処置 処置は不要です。
196950	0x30156	MINOR	Password authentication mechanism failure.	パスワード認証機能が動作していません。 推奨処置 LDAP の設定に問題がないか、または LDAP サーバに障害がないかを確認します。
196953	0x30159	MINOR	Password authentication failure; may need to configure or application restart.	パスワード認証機能が動作していません。 推奨処置 LDAP の設定に問題がないか、または LDAP サーバに障害がないかを確認します。アプリケーションを再起動してください。
196959	0x3015F	INFO	No voice conferencing licenses are installed.	システムには、Web 会議の有効なライセンスがインストールされていますが、音声会議のライセンスはインストールしていません。 推奨処置 音声会議のライセンスをインストールします。
458788	0x70024	MAJOR	Module timed out on "are you there" query, class=##	メジャー ソフトウェア モジュール (クラス番号で識別) の 1 つが System Integrity Manager (SIM) からのクエリーへの応答に失敗しました。システムは再起動されます。 推奨処置 このような失敗の発生をすべて Cisco TAC に報告し、問題診断を依頼します。

表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Express の重要な例外コード (続き)

コード (10進数)	コード (16進数)	シビラティ	表示テキスト	コメント
458889	0x70089	WARN	Stopping exception log due to flooding.	着信メッセージが一定の比率を超えると、例外ロギングプロセスはロギングを停止します。ロギングの停止により、システムが過負荷になったときにロギングメカニズムが重要なリソースを取得できないようになっていきます。 推奨処置 処置は不要です。
458890	0x7008A	INFO	Lost ## exception events; logging resumed.	例外ロギングプロセスは、過負荷のため、標示された数のメッセージをドロップしました。通常のロギングが再開されました。 推奨処置 処置は不要です。
458916	0x700A4	MAJOR	System crashed: restarted by the integrity manager.	システムの復旧に伴いアラームが生成されました。このアラームは System Integrity Manager (SIM) によって開始され、リポート中に設定されたフラグをトリガーとします。 推奨処置 処置は不要です。
1572903	0x180027	INFO	CPGS: Too many conference participants; can't create voice file.	会議に参加するゲスト数が累積し、システムがその会議で名前の記録を保存する能力を超えました。ユーザ名は現在記録されていません。このような状況は、通常ストレステストの場合にしか発生しません。 推奨処置 処置は不要です。
1572914	0x180032	MINOR	CPGS: No space available for recording	ディスクスペースが足りないために、記録の開始に失敗しました。 推奨処置 古い記録を消去します。

表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Express の重要な例外コード (続き)

コード (10進数)	コード (16進数)	シビラティ	表示テキスト	コメント
2097190	0x200026	WARN	NMPAgent received late response (class=##, code=##)	システムのテレフォニーまたはスケジュールリング部分の実行が非常に遅くなっています。過負荷が原因と考えられます。 推奨処置 処置は不要です。
2162708	0x210014	MINOR	POC: Invalid email address for scheduler (##)	会議のスケジュール担当者の電子メールアドレスが有効でないため、そのユーザに電子メールを送信できません。##は、そのスケジュール担当者の一意なユーザ ID です。 推奨処置 処置は不要です。
2162710	0x210016	WARN	POC: E-mail not sent.Client is not authenticated.	認証に失敗したために、電子メールサーバで電子メールが拒否されました。SMTP の設定に問題があると考えられます。 推奨処置 処置は不要です。
2162712	0x210018	WARN	POC: E-mail not sent.SMTP servers are unavailable.	SMTP 電子メールサーバへの接続に失敗しました。サーバがダウンしているか、SMTP の設定に問題がある可能性があります。 推奨処置 処置は不要です。
2162713	0x210019	WARN	POC: E-mail not sent.Address format is invalid.	受信者の電子メールアドレスの形式が無効であるために、アドレスが拒否されました。 推奨処置 処置は不要です。
2162714	0x21001A	WARN	POC: SMTP server failed to deliver e-mails due to unknown recipient.	SMTP 電子メールサーバが受信者の電子メールアドレスが不明だとして拒否しました。 推奨処置 処置は不要です。
2260993	0x228001	MINOR	Connection to web conferencing service restored.	Web 会議サーバに正常に再接続しました。 推奨処置 処置は不要です。

表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Express の重要な例外コード (続き)

コード (10進数)	コード (16進数)	シビラティ	表示テキスト	コメント
2260994	0x228002	MINOR	Error connecting to web conferencing service.Trying again...	<p>Web 会議サーバに再接続しようとしています。</p> <p>推奨処置 このメッセージの後に、「Connection to web conferencing service restored」メッセージがログに記録されていれば、処置は不要です。</p> <p>このメッセージがログに記録されていない場合は、システムの再起動またはメンテナンスが必要になる場合があります。</p>
2260995	0x228003	MINOR	Lost connection to web conferencing service.Trying again...	<p>Web 会議サーバに再接続しようとしています。</p> <p>推奨処置 このメッセージの後に、「Connection to web conferencing service restored」メッセージがログに記録されていれば、処置は不要です。</p> <p>このメッセージがログに記録されていない場合は、システムの再起動またはメンテナンスが必要になる場合があります。</p>

モジュール番号

Cisco Unified MeetingPlace Express の一部のエラー メッセージではモジュール番号が参照されていますが、それに対応するシステム コンポーネントは表示されません。

その例として次のエラー メッセージを示します。

```
11/11 15:13:37.13 MAJ 0x70041 0/2, "siupdown.cc", 265 (0x8, 0, 0, 0)
```

```
Restarting due to software module failure, module = 8
```

この例の 2 行目では、module = 8 となっています。これは、表 4-2 に基づいたもので、エラーが電話ユーザ インターフェイスによって発生したことを示しています。

表 4-2 は、モジュール番号をシステム コンポーネント名に変換したものです。

表 4-2 モジュール番号とモジュール名

内部 エラー番号	システム コンポーネント	モジュール 番号	説明
0	IMC_CLASS_NULL	0	
1024	IMC_CLASS_COMMON	1	共通機能
2048	IMC_CLASS_SIM	2	System Integrity Manager (SIM)
3072	IMC_CLASS_CP	3	コール処理
4096	IMC_CLASS_SM	4	スイッチ マネージャ
5120	IMC_CLASS_CS	5	会議スケジューラ = ERC_BAD
6144	IMC_CLASS_WS	6	ワークステーション サーバ
7168	IMC_CLASS_EXC	7	例外ハンドラ (SIM)
8192	IMC_CLASS_VUI	8	電話ユーザ インターフェイス
9216	IMC_CLASS_DB	9	データベース サーバ
10240	IMC_CLASS_VUI_TESTER	10	TUI テスタ プログラム
11264	IMC_CLASS_TRACE	11	SIM トレース サーバ
12288	IMC_CLASS_WF	12	ワークステーション フロントエンド
13312	IMC_CLASS_UTIL	13	任意のコマンドライン ユーティリティ
14336	IMC_CLASS_LSH	14	シェル機能
15360	IMC_CLASS_DBQ	15	データベース クエリー サーバ
16384	IMC_CLASS_EMAIL_MSG	16	エラー範囲をサポートするクラス
17408	IMC_CLASS_SNMPD	17	SNMP デーモン 制御をサポートするクラス
18432	IMC_CLASS_PO	18	ポスト オフィス サーバ
19456	IMC_CLASS_PO_TESTER	19	ポスト オフィス サーバのテスタ プログラム
20480	IMC_CLASS_SIM_MU	20	マルチユニット SIM セッション制御
21504	IMC_CLASS_FAXGW	21	FAX ゲートウェイ
22528	IMC_CLASS_WEBGW	22	Web パブリッシャ (Peg と重複)
22528	IMC_CLASS_PEGS	22	Peg サーバ (SIM の一部)
23552	IMC_CLASS_SDBS	23	シャドウ データベース サーバ
24576	IMC_CLASS_SDBS_TESTER	24	シャドウ データベース サーバのテスタ プログラム
25600	IMC_CLASS_GWSIMGR	25	

表 4-2 モジュール番号とモジュール名 (続き)

内部 エラー番号	システム コンポーネント	モジュール 番号	説明
26624	IMC_CLASS_GWSIMAGENT	26	
27648	IMC_CLASS_STREAMGW	27	ストリーミング ゲートウェイ
28672	IMC_CLASS_CCA	28	コール制御エージェント
29696	IMC_CLASS_MPDIRSVC	29	ディレクトリ サービス
30720	IMC_CLASS_MERGED	30	PCI 変換 / 統合デーモン
31744	IMC_CLASS_GSCOPE	31	ジャイロスコープ アプリケーション
32768	IMC_CLASS_NMPAGENT	32	NMPAgent
33792	IMC_CLASS_TWATCH	33	トリガー監視
34816	IMC_CLASS_POCLIENT	34	ポスト オフィス クライアント

■ モジュール番号



Cisco Unified MeetingPlace Express システムの一般的なトラブルシュー ティングのヒント

この章には、次のトラブルシューティングに関するトピックがあります。

- [ディスクドライブのスワップアウト \(P.5-2\)](#)
- [ファイルの場所 \(P.5-3\)](#)
- [ライセンスエラーの問題のトラブルシューティング \(P.5-4\)](#)
- [過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング \(P.5-4\)](#)

この章を確認した後も Cisco Unified MeetingPlace Express に関する問題が解決しない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC へのお問い合わせについては、[P.xiii](#) の「[テクニカルサポート](#)」を参照してください。

ディスクドライブのスワップアウト

ここでは、使用している Cisco MCS サーバでハードディスクドライブをスワップアウトする方法について説明します。Cisco MCS サーバには、それぞれ複数のハードディスクドライブがあるため、1つのハードディスクドライブに障害が発生しても、Cisco Unified MeetingPlace Express システムを継続して使用することができます。ただし、冗長性はないため、システムがダウンした場合は、オペレーティングシステム、アプリケーション、データが失われる可能性があります。

作業を開始する前に

-
- ステップ 1** Cisco MCS サーバのモデル番号を確認します。
 - ステップ 2** Cisco MCS サーバのどのハードディスクドライブに障害があったかを確認します。
 - ステップ 3** 交換用ハードディスクドライブを発注します。交換用ハードディスクドライブは、交換されるものと同じモデルである必要があります。
-

Cisco MCS 7825 でのディスクドライブのスワップアウト

Cisco MCS 7825 のすべてのバージョンには、フロントアクセス方式のシンプルスワップ Serial Advanced Technology Attachment (SATA) ハードディスクドライブが付属しています。SATA ハードディスクドライブには、サーバの前面ベゼルの開口部からアクセスできます。ハードディスクドライブに障害が発生した場合は、サーバのダウンタイムをスケジュールしてサーバの電源を切り、障害のあった SATA ドライブを取り外して、未設定のスペアのハードディスクドライブに交換します(各ドライブには、サーバに接続されたドライブと確実に連動するフロントラッチが装備されています)。

ディスクを交換するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** サーバとすべての周辺装置の電源をオフにします。
 - ステップ 2** 電源コードとすべての外部ケーブルの接続を外します。
 - ステップ 3** 障害のあるハードディスクドライブを取り外します。
 - ステップ 4** 新しいハードディスクドライブを挿入します。
 - ステップ 5** 電源コードとすべての外部ケーブルを接続します。
 - ステップ 6** サーバの電源をオンにします。
 - ステップ 7** Cisco Unified MeetingPlace Express のオペレーティングシステムを再インストールしてアプリケーションを元に戻し、バックアップからデータを復元します。
-

Cisco MCS 7835 または MCS 7845 でのディスク ドライブのスワップ アウト

Cisco MCS 7835 および Cisco MCS 7845 のすべてのバージョンは、RAID 1 を使用して設定された、最高 6 つの Small Computer System Interface (SCSI) ホットプラグ ハードドライブ (または 5 つのホットプラグ ハードドライブと 1 つのホットプラグ テープドライブ) をサポートします。これらはホットスワップ可能な SCSI ドライブであるため、サーバの電源を切らずに変更することができます。

ハードディスク ドライブに障害が発生した場合にディスクを変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 障害のあるハードディスク ドライブを取り外します。



(注) システムの電源をオフにする必要はありません。

ステップ 2 新しいハードディスク ドライブを挿入します。

新しいディスクは、中断なく自動的に同期されます。

ファイルの場所

システム管理者は、複数のファイルを使用します。表 5-1 は、いくつかの一般的なファイルの場所を示しています。

表 5-1 ファイルの場所

場所	説明
/lat/bin	ほとんどの実行ファイルを格納
/var/mp	ほとんどの stderr および stdout ファイルを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/application/logs	ほとんどのログを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/application/versions	インストールされた各バージョンのディレクトリを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/uninstaller	アンインストール用スクリプトを格納
/opt/cisco/meetingplace_express/database/db-maintenance	バックアップ、アーカイブおよび復元用データベース スクリプトを格納

ライセンス エラーの問題のトラブルシューティング

問題 ライセンスをインストールしようとしているのですが、「Sorry. Cannot enter the license at this time.」というエラーが出ます。なぜでしょうか。

解決策 製品のインストール時に入力したホスト名が 32 文字を超えています。net コマンドを使用して、システムのホスト名を 32 文字以下に変更してください。net コマンドについては、『Cisco Unified MeetingPlace Express インストール アップグレード ガイド Release 1.2』を参照してください。

問題 Cisco Unified CallManager Release 5.x を使用していますが、Cisco Unified MeetingPlace Express の Cisco Unified IP Phone サービスにアクセスしようとすると、正しいユーザ名と PIN を使用しても、必ずログインに失敗します。電話の画面には、認証失敗のメッセージが表示されます。なぜでしょうか。

解決策 これは既知のバグです。回避策として、Cisco Unified CallManager の管理領域にアクセスし、Cisco Unified MeetingPlace Express サービスに移動して、変更をしないまま [登録の更新] をクリックします。



(注) この問題は、Cisco Unified CallManager Release 4.x 以前では発生しません。

過剰な数の電子メールがランダムに送信される問題のトラブルシューティング

問題 Cisco Unified MeetingPlace Express システムが過剰な数の電子メールを送信することにより、使用中の電子メールおよび音声メール システムがクラッシュします。どうしたら止めることができますか。

解決策 その電子メールは cron スクリプトによって生成されています。cron デーモンは、crontab ファイルに設定されている電子メールアドレスに対して、すべてのジョブの電子メール レポートを送信します。この電子メールを無効にするには、crontab ファイルを手動で編集して、MAILTO の行を MAILTO="" に変更します。

Web ページが表示されない問題のトラブルシューティング

問題 Cisco Unified MeetingPlace Express システムのインストール後、ホームページが表示されません。

解決策 インストール時にホスト名の値を正しく設定したかどうか確認してください。正しくない情報を入力した場合は、net コマンドを使用して値を変更します。net コマンドの使用の詳細については、『Cisco Unified MeetingPlace Express インストール アップグレード ガイド Release 1.2』を参照してください。



C

- Cisco MCS 7835-H1-RC1
 - ディスクドライブのスワップ 5-3
- Cisco Unified MeetingPlace Express
 - 一般的な電話エラー 3-1
 - 関連マニュアル vii
 - トラブルシューティング 1-1, 2-1, 4-1, 5-1
 - システムへのアクセス 1-6
- Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2 と Microsoft Outlook の統合
 - ユーザガイド
 - ロケーション オンライン vii
- Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2
 - ロケーション オンライン vii
- Cisco Unified MeetingPlace Express ユーザガイド Release 1.2
 - ロケーション オンライン vii
- Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2
 - ロケーション オンライン vii

G

- G.711 3-3
- G.729 3-3
- Guide to Cisco Unified Conferencing Documentation and Support
 - ロケーション オンライン vii

L

- L0 バックアップ 2-4

R

- RFC 2833 3-3

S

- SATA ハードディスク ドライブ 5-2
- SSL 証明書
 - システムへのアクセス 1-6
 - トラブルシューティング 1-6

V

- VAD 3-7

お

- オートネゴシエーション 3-2
- 音声アクティビティ検出
 - 「VAD」を参照

こ

コマンド

- archive 2-3
- backup 2-2
- errorlog 4-2
- immunize 1-3
- infocap 3-3, 3-5
- mii-tool 3-2
- ontape 2-4
- passwd 1-4
- restore 2-4
- unimmunize 1-4
- userutil 1-5

し

- システムクロックの例外コード 4-2
- システム管理者

忘失パスワードの復元 1-5
 システムへのアクセス 1-6
 ジッタ バッファ 3-7
 証明書署名要求 (CSR) 1-7

せ

全二重
 トラブルシューティング 3-2

そ

速度
 トラブルシューティング 3-2

て

ディスクドライブ
 スワップ 5-2
 データのアーカイブ
 定義 2-3
 ~について 2-3
 データのバックアップ
 定義 2-2
 ~について 2-2
 データの復元
 定義 2-4
 ~について 2-4

と

トラブルシューティング
 LDAP の設定 4-4
 押したキーの未検出 3-3
 コール中の沈黙時間 3-6
 コールのドロップ 3-5
 着信コールの失敗 3-4
 ディスクドライブのスワップアウト 5-2
 電話の失敗 3-2
 パケットのドロップ 3-7
 トレース ログ 3-6

は

パケット サイズ 3-7
 パスワード
 mpxadmin ユーザの 1-4
 mpxadmin ユーザの変更 1-4
 root ユーザの 1-2
 システム管理者の 1-5
 復元 1-2
 バックアップ
 L0 2-4

ひ

秘密鍵
 アップロード 1-7

も

モジュール番号 4-8

り

リファレンス マニュアル
 Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2 と
 Microsoft Outlook の統合
 ユーザ ガイド vii
 Cisco Unified MeetingPlace Express Release 1.2 vii
 Cisco Unified MeetingPlace Express ユーザ ガイド
 Release 1.2 vii
 Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified
 MeetingPlace Express Release 1.2 vii
 Guide to Cisco Unified Conferencing Documentation and
 Support vii